

## 診療支援部 施設用度課

課長代理 宮下 公将

新型コロナウイルス感染症の影響により1月からマスクの供給不足が発生。その後も断続的に新型コロナウイルス感染症の対応をとりつつ、他の業務をこなしていく1年となった。

### 1、特記事項…新型コロナウイルス感染症への対応

#### (1) 衛生材料

1月末に中国へのマスクの物資支援のニュースが流れた時、当初は対岸の火事といった印象を抱いたが、数日後には早々に当院のマスクの供給が途絶えることが判明した。各種衛生材料の確保が必要であることを痛感し、すみやかにプラ手袋、清拭クロス、フェイスシールド、ガウンや防護服、手指消毒剤などの供給状況の確認および在庫確保の対応をおこなった。卸業者やメーカーは「供給不足の懸念はない」との回答が大半であったが、在庫の積み増しや供給継続の約束を取り付けるなどして対策を講じた。

結果としては、日々刻々と状況が変わっていきメーカーが各衛生材料の供給停止を次々と告げてくる事態となったが、事前対策が功を奏し診療現場への供給を途絶えさせることなく対応できた。

衛生材料確保の佳境は2月、3月頃であったがその後も状況の変化はしばらく途絶えることがなかったため、週次での在庫残と供給状況の確認をおこない、必要であれば通常の物流ルートにこだわることなく物資の確保をおこなってきた。

もっとも苦労したのはマスクの対応であった。地場でマスクを生産する業者をたずねたり、単発的にマスクが確保できる情報を入手しては早急に確保したり、という対応をおこなった。確保したマスクは種類が十数種類となり、感染制御部の指導のもと、その管理および各部署への配布先には十分な配慮をおこなった。

他の病院では数日間同じマスクを使用したりアルコール消毒をおこない再利用したりする対応が常態化しているところもあったようだが、当院では1日1枚のマスク提供を継続させることができた。

秋口以降は供給が徐々に安定化してきたが価格は不安定な状態が続いている。中には単価が倍以上に高騰してからいまだに高止まりしている材料もあり、経費への影響が大きく、翌年以降も継続した対策が必要となっている。

#### (2) 環境整備、資機材の確保

備品や機材類の確保は新型コロナウイルス感染症の第一波がおさまった5月頃から順次検討を開始している。

高額機器は、可搬式のUV-C照射装置の導入の相談を感染制御部より受け8月頃に2機を導入した。また発熱外来などの感染対策として可搬式のクリーンパーテーションを順次導入、10月には新型コロナウイルス感染症患者専門病棟の個室を7室整備するために簡易陰圧装置の導入、設置に対応した。

そのほか来院者や職員同士の飛沫感染防止のために、各受付カウンターや昼食用のテーブルなどに随時アクリルパネルやビニールシート設置の対応を順次おこなった。

ほかに、保健所からのPCR検査の要請にこたえるため、3月に管理棟1階の駐車場2台分のスペースにテントを張り検査場を設置。7月には本館C棟1階に発熱外来を開設。また11月後半には高知県下の新型コロナウイルス感染症の陽性患者増となり、当院でも中等症の患者受け入れ病棟の立ち上げが必要となり、SCU病棟の設備改修、備品確保にあたった。

#### (3) 補助金の申請

緊急事態については致し方ないことであるが国の各省庁や自治体その他組織などの補助制度、支援が乱立し、十分な情報整理と的確な対応が求められた。国のみを例にとっても、主に3次の補助制度が随時発出され、そのメニューは人員、消耗品、資機材、病床確保などにわかれており煩雑なものであった。また備品はリースにて手配しその年額を補助するといったこれまでの補助制度にはない仕組みのものもあったが、情報整理を十分におこないながら申請に対応した。

## 2、施設・設備関連 主な対応事項

### (1) 計画停電

2020年は3年に1回の計画的停電をとまなう電気設備点検の実施が複数の病棟で発生する年であり、A棟、BC棟、北館の停電作業を実施した(2021年2月には総合診療センターの計画停電を予定)。

特にA棟、BC棟は重要設備が多いため日程調整や各部署に停電時の情報を詳細に共有し、停電に向けた事前準備や停電中の運用の検討、当日の協力依頼など慎重を期して対応した。当日は計画停電実施中の時間を有効活用し、停電時のセンサー式水栓、個室トイレ照明、自動ドアの給電有無を確認し、それぞれテプラテープで表示し災害時の備えとした。

### (2) 本館BC棟5階、6階のトイレ改修工事

建築7か年計画において、BC棟の改修も実施しているが、5・6階病棟は最小限の改修のみの実施となっており、共用トイレが和式トイレのままであったり十分なスペースがなく利便性が低かったりしたままであったため、全面的な改修をおこなった。2019年から計画は行っていたが新型コロナウイルスの影響もあり、前期工事としてB棟5階・6階を9月下旬から12月中旬までの工期で実施した。2021年には新型コロナウイルスの状況も見据えながらC棟の工事も実施予定である。

改修の計画においては建築設計事務所や、看護師長と十分な打ち合わせを行い、全体のレイアウトやトイレの仕様、手すりや手洗いの配置、用具入れの位置など詳細まで配慮し利便性をなるべく高める設計となるよう調整につとめた。

### (3) 電話交換機更新の検討開始

現行電話交換機の経年による保守サービス終了のため、電話交換機の更新の検討を開始。高額投資であり今後のICT化に対応できる設備となるよう、次期通信機器検討委員会を立ち上げて病院全体の重要事項として検討を進めることとなり、12月に第1回目の委員会を開催している。インターネットと通信技術の折りがつくようにICT推進課、電子カルテ管理課と連携して今後も検討を進める。

## 3、購買関連 主な対応事項

### (1) 高額医療機器検討委員会における医療機器などの導入検討の対応

当該委員会は当課が事務局を担当している。購入希望の部署からプレゼン提案をしてもらう形式となっているが、会議実施まで調整のほか、メーカーとの価格交渉や滞りなく納品するための対応にあたっている。

➤委員会にて導入の承認を得た医療機器等

- ・内視鏡検査情報管理システム
- ・ドクターカー1台
- ・超音波診断装置 1台(ER)
- ・超音波凝固切開装置、水圧式ナイフ 一式(消化器外科)
- ・麻酔器 1台(2019年度申請分)
- ・バイポーラ電気メス 1台(泌尿器科)

- ・アブレーション装置、ポリグラフ装置 一式
- ・部門システムの仮想化および動作検証費用 一式
- ・モバイル端末 画像参照システム 一式（脳神経外科）
- ・血液浄化装置 2台
- ・UV照射装置 2台
- ・超音波診断装置 3台（放射線科／臨床検査部）
- ・超音波診断装置 1台（泌尿器科）
- ・超音波診断装置 1台（糖尿病内科）
- ・超音波診断装置 1台（生理検査室）
- ・麻酔器 1台（2020年度申請分）
- ・微生物培養検査システム 1台
- ・質量分析装置（迅速同定） 1台
- ・3次元画像解析システムのバージョンアップ（放射線科）
- ・3D超音波診断装置 1台（循環器内科／臨床検査部）
- ・お薬手帳取込みシステム 一式（薬剤部）

➤当委員会の傘下ワーキンググループの対応

高額医療機器検討委員会の傘下の委員会として次期通信機器設備委員会を立ち上げて電話交換機更新の検討を開始。既述のとおり。

## （2）各種医療材料への対応

既述のとおり新型コロナウイルスの影響で供給不足や価格高騰となる材料が多発し、その対応を継続して行った。

あらたな医療材料の導入の検討にも対応しており、MI（メディカルインフォメーション）カードによる試用申請受付は19件。それ以外にも各部署からの問い合わせに対応しているが、昨今では新しい医療機器を導入する際に付随する消耗品が高額であるケースも散見されるため、医療機器と同時にその導入方法を検討する必要がある。

医療材料の購入費用は積算するとかなり高額なため、これまでも十分な交渉や価格調整も実施してきているが、導入済みの製品の中にも価格交渉できる材料がないか留意し、今後機会をとらえて粘り強く対応していく。また翌年は価格検討すべき材料にターゲットを絞り、具体的な対応を進め成果につなげていきたい。

## （3）本館CTの更新

本館B2CT室の装置は導入から20年以上経過していたため、9月にこの更新をおこなった。既存と同メーカー製品への更新であったため、大きな設備改修は発生しなかった。装置本体のほか保守費用も十分に妥当な金額になるよう、導入前に交渉した。

## 4、今後の課題

### （1）大型医療機器の更新、建物と設備の修繕実施

建築7か年計画から10年を迎える建物についてはその当時に新規導入した大型医療機器が多く、順次更新時期を迎える。またそれ以前から使用してきた建物は年次により適宜電気設備の更新、躯体自体の修繕が必要となる。

いずれも億単位での調整になりうる案件のため、年次での長期的な投資計画の立案をおこない、病院経営の安定化に寄与したい。

### （2）人材育成

当課は定型業務も一定量存在するが、各部署からの要望を受けて柔軟かつスピーディに対応することが求められる。

また、法令やコンプライアンスの順守、働き方の変遷などにより、対応すべき事項は年

次で増加していると感じている。

これらに対応するためには管理側が具体的な方針を示すことと、各職員が的確に物事を判断し、より難易度の高い業務も遂行できる能力を有することで、職員一人一人が自立自働した働き方をすることがきわめて重要となる。

そのために部署の指針明示と各メンバーの目標設定および自己の能力を高めていく取り組みを行っていく。

### (3) 業務効率化

働き手の減少という人材確保の観点、業務の質アップの観点両方から、業務効率をアップすることは必至の課題となる。

その解決策がインターネット技術の導入であるが、インターネット技術を導入することが目的になってしまい業務効率化が置き去りにならないよう、配慮しながら進めたい。そのために、日進月歩のIT技術をどのように導入するか、システムに詳しい部署だけに任せるのではなく、最低限の知識は身に付けたうえでIT化の検討に積極的に参加できるようにしたい。またコンピューターが得意な自動化、電子化を進める前提として、定例業務を中心に業務の見直し、標準化をしてIT化の準備を進めていきたい。

## 5、その他（基本情報）

### (1) 経費節減報告【2020年1月～12月】

➤電気使用量	14,983,425kwh	(昨年：14,769,125kwh 昨対比：101.5%)
電気料金	260,655,594円	(昨年：272,142,677円 昨対比：95.8%)
➤コピー代	21,992,968円	(昨年：20,012,318円 昨対比：109.9%)
内訳…モノクロ	5,894,967円	(昨年：5,349,704円 昨対比：110.2%)
カラー	16,098,001円	(昨年：14,662,614円 昨対比：109.8%)
➤水道使用量	107,772 m <sup>3</sup>	(昨年：120,106 m <sup>3</sup> 昨対比：89.7%)
水道料金	72,369,659円	(昨年：81,159,709円 昨対比：89.2%)

#### (変動要因など)

- ・コロナウイルス感染症の換気対策でエアコン使用量が増加傾向。
- ・今後の電気代対策としては照明のLED化を推進予定。
- ・病棟中心にパソコンからのプリントアウト出力を複合機に統合し、出力枚数増加傾向。
- ・水道使用量は総合心療センターの給水配管の破裂の対策を実施。  
また本館の使用量も昨対で減っており、全体での使用量も大きく減少。

### (2) 2019年度\*「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」の報告

- ・社会医療法人近森会 原油換算 3,821kl (対前年度比 100.03%)
- ・近森病院 原油換算 1,918kl (対前年度比 101.2%)

※省エネ法の報告は前年度(2019年4月～2020年3月)の実績

### (3) 屋上ヘリポートの患者受け入れ対応件数

- ・103件 (昨年112件) ※高知県ドクターヘリ、防災ヘリ等を合算

### (4) 人事関連

#### ➤入退職、異動

- |    |                          |                          |
|----|--------------------------|--------------------------|
| 1月 | 楠瀬達也、中越将仁、岡林壽治、味元伸二、川村正彦 | …異動による転出 (施設用度課から危機管理部へ) |
| 6月 | 久保 亢                     | …退職                      |
| 9月 | 小谷竜也                     | …入職                      |

1 2月 河内菜穂実 …異動による転入（オルソ病院から施設用度課へ）

➤昇格

1月 宮下公将 …課長代理

5月 小倉 夢 …主任

以 上